



ベトナム戦争終結50年を迎えた4月30日、ベトナムでは南部の商業都市ホーチミン市で大規模な記念パレードが開催された。ホーチミン市に現存する統一会堂は、かつて南ベトナムの大統領府(官邸)として機能していたが、現在では、歴史博物館として多くの観光客を受け入れる施設に変わった。ただし、地下に残る当時の作戦司令室や、屋外に展示されている戦車を見ると、時の流れを感じざるを得ない。

ベトナム戦争当時、バンコクから南東へ約160キロ離れたタイ・パタヤの街が米軍兵士の保養所として利用された。現在では、戦争の悲劇とはかけ離れた、アジア有

ベトナム戦争終結50年

数のビーチリゾート地へと変貌している。タイは、米国の同盟国としてこの戦争に介入し、軍事基地の建設や軍需産業の発展を通じて経済成長を成し遂げた。

一方、戦争終結後のベトナムは、1986年のドイモイ(刷新)政策を機に、市場経済を導入し、海外からの投資や輸出産業の発展を促進した。近年では、中国からの生産拠点の移転や、人件費などの製造コスト削減が成長を後押しし、東南アジア諸国連合(ASEAN)加盟国の中で最も高い国内総生産(GDP)成長率を誇っている。バンコク日本人商工会議所が昨年、タイでは、今後の有望な輸出市場として、ベトナムがインド

タイと関係良化、共生へ

に次いで2位になった。タイ、ベトナム両国は、共生の時代を迎えたといえよう。

5月に入り、タイのペー



ベトナム・ホーチミン市に現存する統一会堂

ン首相はベトナム・ハノイを訪問し、フアム・ミン・チン首相と会談。両国の関係を包括的な戦略パートナーシップに格上げすると発表。貿易、麻薬対策、教育など複数の分野で協力文書に調印した。また2024年の両国間貿易額は200億ドルを超えたが、30年までに年間250億ドルを目指すという。

以前、ホーチミン市を訪ねた時、市庁舎前に立つベトナム初代国家主席・ホーチミンの像を目にした。南北が分断したベトナムであるが、植民地からの独立を果たしたホーチミン主席の功績は大きい。今日の平和と国家の発展はもとより、隣国タイとの関係良化を誰よりも喜んでいることであろう。

両国の過去の歴史を学び、両国のさらなる発展を祈りつつ、今後海外ビジネス支援に取り組んでまいりたい。(岐阜信用金庫バンコク駐在員事務所長 高橋英孝)